

INFORMATION

チーム・コヤーラ ミーティング&パーティ

コヤーラ・クラブ会員の方はどなたでも参加できます！（一般の方の同伴 OK）

11月16日（月） 19時から2時間（受付開始 18：45）

会場 渋谷フィエスタ

東京都渋谷区神南 1-8-18 神南フラッツ B1 TEL 050-5797-0978

JR 渋谷駅から徒歩 5 分。NHK ふれあいホールギャラリーから徒歩 5 分。

参加費 4500 円（飲食費込） 10月15日申し込み〆切

申し込み方法：チーム・コヤーラまでご参加する方の「人数」「氏名」「参加費振込日」を事務局まで電話、郵便、email などでお知らせ下さい。お振込がない場合、予約は完了しません。予約が完了しましたら、確認のご連絡を差し上げます。

会場収容人数は余裕がありますが、先着順となります。また、原則的に一度お申し込み頂いた予約金はやむを得ない理由がない限りご返却できませんので、予めご了承ください。

内容（予定）「チーム・コヤーラの活動報告」「海外展報告」「本年度出品作品紹介」ゲストの作家の方々と交えての自由な交流

昨年度はほとんどの方が、知り合いもなくお一人で参加され、ここから多くの交流が生まれました。

参加者（予定）よねやまりゅう、つじとしゆき、戸田和子、長谷川裕子、上野延子、中村寝郎、安達忠良ほかの方々、チーム・コヤーラ（敬称略・順不同）

海外展 出品者募集

ART OF DOLL（モスクワ/ロシア）

2015 年 12 月 11 日（金）～ 13 日（日）※搬入は 12 月 10 日

会場 Gostiny Dvor（赤の広場そば）

主催 DOLL WORLD FOUNDATION

創作人形では世界で規模をクオリティを誇る展示会です。見学だけでも楽しめるでしょう。出品をご希望の方は、下記をご覧のうえ 10 月中にチーム・コヤーラ羽関までご連絡ください。詳細をご案内します。現地では羽関がご案内いたします。

出品方法

・チーム・コヤーラ出品枠（プロレベル対象 チーム・コヤーラの審査あり）
・個人出品（審査なし・希望者は一般の方への申し込み方法をご案内します）
ART OF DOLL のためロシアに行かれる方は、ユーラストラベルへのご相談をお勧めします。ビザ取得、航空券宿泊手配、会場への移動方法など、「12 月の ART OF DOLL」と伝えてご相談ください。
（株）ユーラストラベル（ユーラスツアーズ改め）
〒 106-0044 東京都港区東麻布 1-26-8
TEL：03-5562-3382 FAX：03-5562-3380
e-mail：tokyo@euras.co.jp

チーム・コヤーラ主催 創作人形展 今年は中国からも参加！？

～第 2 回 それからの人形たち～

2015 年 11 月 17 日（火）～ 11 月 22 日（日）

10:00 ～ 17:30（11/22 最終入場 14:30 迄）

会場：NHK ふれあいホールギャラリー

東京都渋谷区神南 2 - 2 - 1 N H K 放送センター内 NHK ホール隣

TEL：03-3481-5614（土日祝以外の 10:00 ～ 18:30）

出品・2014 年受賞者 土井千尋 / 風らい坊 / ユズミコ / 原田万紀 / 池谷基 / Minagawa Dolls / 佐々木英俊 / クサボン / 新家智子 / 成瀬麻里子

2014 年出品者（選抜） 大嶋亜南 / 上妻みどり / ちゃお / 横瀬和江 / 漆あきこ / 柴崎弘子 / memi / 尾花智子 / En / タミコ・金 / 細貝まい / 福泉久美子 / 髪結ひ辰乃 / 是空 / ゆきち

招待作家 高橋操 / 矢部藤子 / よねやまりゅう / 月光社 / くるはらきみ / イフンケ（タレイア小松）/ Noe / 戸田和子 / 知神けい子 / 所由紀子 / 長谷川裕子 / 上野延子 / 中村寝郎 / 影山多栄子 / 西村 FELIZ / 青の羊 / UNIVERSAL POOYAN / 鬼契（中国・予定）敬称略・順不同

会場内同時開催 「人形と作者展」 ※各期初日に、出品者の搬入・飾り付け作業を公開、作者と作品を鑑賞の対象とする実験的展示です。公開講評も同時に開催します。

前期：11 月 17 日（火）～ 19 日（木）村田ちか / 恵木洋子 / たつきー

後期：11 月 20 日（金）～ 22 日（日）佐々木英俊 / 中村周子 / 白城（中国・予定）

公開セッション（下記日程のみ）：

搬入公開（13:00 ～）、公開講評（14:00-15:00）、質疑などご自由に。

11 月 17 日（火）講評者：高橋操、矢部藤子

11 月 20 日（金）講評者：よねやまりゅう、つじとしゆき

第 2 回 SPRING DOLL FESTIVAL（ミュンスター/ドイツ）

2016 年 4 月 23 日（土）・24 日（日）

会場 ミュンスター メッセ

コヤーラ通信 22 号でお伝えしたフェスティバル。主催者はヨーロッパに新しい人形シーンづくりに挑戦しています。プロにもビギナーの方にもお勧めです。現地では羽関がご案内いたします。

出品方法

・チーム・コヤーラ出品枠（審査なし 出品数限定）

・個人出品（審査なし・希望者は一般の方への申し込み方法をご案内します）

出品をお考えの方は、オフィスサイズへのご相談をお勧めします。

オフィスサイズでは人形展参加ツアーをご用意しております。個人的に旅行プランのご相談も承っております。

（株）オフィスサイズ

〒 136-0072 東京都江東区大島 5-45-9-408 担当：片山

TEL：03-3684-9395

e-mail:freude-reise@office-sei.net（ツアー専用）

URL:www.freude-reise.net

旅行主催 羽関オフィス mail:hazeki@nonc.jp

作品写真 2～3 点（全体・アップ・裸形） サイズ：ハガキ大。

「会員番号」「作家名」「タイトル」「素材」「サイズ」他、簡単なコメントなど。

※何点でも応募できますが、誌面の都合上掲載はお一人 1 点になります。

※応募作品はウェブ上で公開されることもあります。（講評は紙面のみ掲載）

※応募書類は返却いたしません。

個人情報について

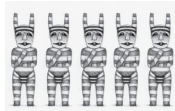
頂いた個人情報はチーム・コヤーラの業務委託を受ける HAZEKI office が厳重に管理します。名簿はチーム・コヤーラのニュースレター発送に使用させていただく他、チーム・コヤーラの趣旨に沿って DM クラブ会員にとって有意義と判断した情報を伝達する以外には一切使用せず、チーム・コヤーラ以外の第三者が閲覧、使用することは一切ありません。

各お申し込み・連絡先

チーム・コヤーラ
東京都東村山市久米川町 3-27-57 HAZEKI office 内
TEL 042-395-7547（担当 ハゼキ）
FAX 042-395-7975
URL http://koyaalajp/
Email team_koyaalaja@yahoo.co.jp

KOYAALA 通信 編集責任者 羽関チエコ（HAZEKI office）

©KOYAALA TSUSHIN 2010, printed in Japan 本紙記載の記事・写真の無断使用・転載を禁じます。



KOYAALA 通信

No.23
Oct.1, 2015



「KOYAALA 通信」は、チーム・コヤーラがコヤーラ・クラブ会員に発行するニュース・レターです。年 4 回発行 発行日（予定） 1 月 1 日、4 月 1 日、7 月 1 日、10 月 1 日

井桁裕子

「片脚で立つ

森田かずよの肖像」展を見て

羽関チエコ

ポートレートドールには、その生々しさゆえの迫力があります。井桁裕子さんのポートレートドールからは、それに加えて内面を直視しさらけ出そうとする気迫、苦しみを克服する意志が、ストレートなパワーとなってじんじんと放出されてくるようです。＜今回も近未来的彫刻に度肝を抜かれた＞というクマさんこと鉄の彫刻家・篠原勝之さんをはじめ、多くのプロの表現者、関係者が次々に賛辞を寄せたのはその迫力ゆえかと思います。

井桁さんは初期には自身をモデルにしていますが、近年のポートレートドールは舞踏家やダンサー、ハンディキャップのある方々がモデルです。初見の人は作品を見て、そのモデルに似ていることを感心されると思います。もちろん対象に似ていますが、私にはどうしても井桁さん本人に見えてしまうのです。まっすぐに対象の内面に迫ろうという気迫に井桁さん本人のイメージが重なり、一瞬、目のやり場に困ってしまうほどののです。だから今回のように身体にハンディキャップのある方のポートレートドールとなると、弱者の痛みを生命力に変換してみせる大技も仕掛けられているので、作品を前に恐れ入るしかありません。

この息苦しいほどの誠実さ。それは他者や社会の痛みを自身の痛みとして共振すべくセットした、井桁さんのなかにある張り詰めた繊細な神経、そして負の要因を突破しようとする強靱な意志に由来しているのでしょう。それが作家・井桁裕子の人形の世界をつくっているのだと思い、私は作品を見ています。

一方、井桁さんの人形の世界にはその緊張を突き抜けるユーモアもあり、個人的に楽しみにしています。2004 年の「球体関節人形展」（東京都現代美術館）で発表した美術家マリオ・A や精神分析医の藤田博史氏などのポートレートドールは、リアルな赤ん坊の体と大人の性器をあわせもっていました。彼女の人間観察と技術とユーモアのセンスが発揮された傑作です。身体をデフォルメして遊ぶ人形の要素と、ファインアートとしての文脈という、両分野でのアイデンティティを有する人形を実現した好例だったと思います。

前回個展（2012 年）「加速する私たち」では、舞踏家の高橋理通子さんの身体をデフォルメし、勢いで体がちぎれても疾走する想像上の姿を、見事にリアルな造形として出現させました。

今回のモデル、ダンサーの森田かずよさんの身体は先天的に変形しています。森田さんはその姿をあえてさらし、ダンス表現に取り組む勇氣のある方です。この方の人形は、井桁さんは誠実な模写で作品化しました。今回は想像の遊びではなく、森田さんのたくましさをいかに美しく伝えるかがテーマだったのでないかと推測します。

そしてまた、私にはこの森田さんの人形が井桁さんに見えてドキドキしてしまうのでした。

井桁裕子「片脚で立つ森田かずよの肖像」展

ときの忘れもの（東京・南青山）2015 年 9 月 15 日～ 9 月 27 日



写真中
「片脚で立つ森田かずよの肖像」
桐塑、油彩
H100cm
撮影 齊藤哲也

写真中
「反魂香」陶 H16cm
写真下
「疑問符」陶 H14.5cm
小さな陶作品のシリーズは、のびのびとした曲線が美しい。粘土の大きな作品と対照的な趣き。

ART DOLL EXPO

Shanghai World Expo Exhibition and Convention Center (上海 / 中華人民共和国)
2015 年 7 月 10 日 ~ 12 日

羽関チエコ

7 月 10 日から 12 日まで、中国で初めての国際的な創作人形展、ART DOLL EXPO で日本人作品を展示してきました。出品要請が 5 月、不安もありましたが主催者からの熱心な呼びかけもあり、ドイツ、ロシアからの参加もあるということで、視察を兼ねながら急遽試験的に出展に取り組むことにしました。

同じ会場で同時開催される政府主催のアニメとゲームの「CCG エクスポ」というイベントが昨年 23 万人の動員の実績があったことから、集客への期待がありました。

日本からは急な要請にも拘らずベテラン勢に新人を交えた 8 人の作家の方が展示に協力、現地には月光社のつじとしゆきさんが赴きました。月光社は中国の兵馬俑にインスパイアされたテラコッタの球体関節人形など意欲作 3 点を出品。中国と日本の人形文化の橋渡しにふさわしい作品でした。日本のブースは出品作品を写真ポスターにして黒い壁面に掲示、会場で高い格調を放ちました。

しかし、一言でこの展覧会の報告をするとなれば、惨憺たるものでした。まず中国国内の出品者数があまりに少なくて当惑しました。さらに、CCG の階上にありながら宣伝が行き届かず動員は完全に失敗。ロシアの ART OF DOLL、ドイツの Spring Doll Festival、そして日本の展示がなかったら、これは展覧会の体裁を保てませんでした。

中国国内からはユニークなクリエイターたちの一片を見ることができましたが、出展数はまったく足りず、器の大きさがかりが気になる体裁になってしまいました。しかし人形が玩具としてしか見られていない中国で美術的な人形があることを知らせる意味では、この展覧会は実績にはなったと思います。

このように出品者にとっては失望せざるを得ない結果となりましたが、つじさんによればワンフェスの初期も、実に小規模だったそうです。私自身も何も知らずに勢いで人形の仕事を始めた頃を思い出しました。そういう意味で、今回は中国創作人形界の「初めの一歩」に立ち会った思いがしています。

今回の内容をどう組み立てて行くか、主催者の実力が問われていくことになります。私からは主催者のアメリカ・ワンさんにいくつか提案をしました。沢山の宿題がありますね、と話すと深く頷いてました。上海は押井守監督が「イノセンス」冒頭シーンのためにでロケハンした都市ですが、近未来と下町の風景、さらに文化や思想が入り組んでいます。こんなに日本に近いのにこんなに日本と違う面白さ。共産圏の上海で、創作人形がどう根付き、どういう作家が育っていくのかも興味が 있습니다。その種まきに月光社をはじめ私たちが関わったという実感がありました。

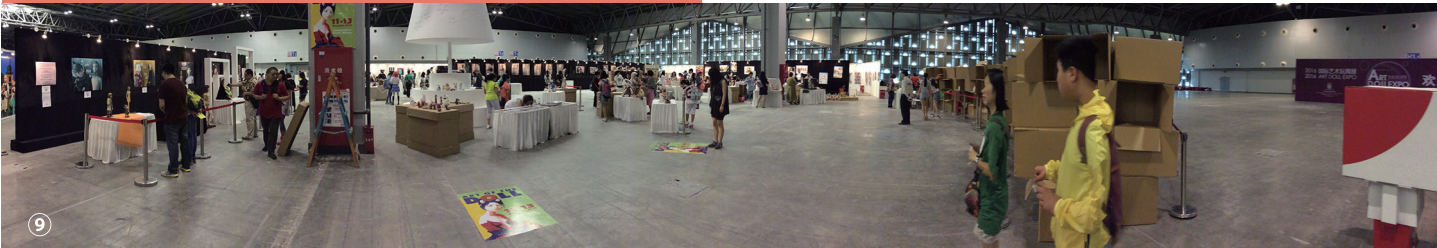
既に入形市場や文化が確立している日本よりは、これからの作家にとってスタートラインが皆一緒。作品の力だけで挑戦のしがいがあるともいえます。そのためには、これからの情報交流が重要です。ワンさんに 11 月チーム・コヤールが主催する創作人形展への見学、出品を促したところ、作家の白城さんと来日すると返事がありました。白城さんは作品出品予定です。中国のアートドールシーンに私たちはどう関わることができるでしょうか？

11 月 16 日のパーティにも参加されますので、会員の方はお気軽にご参加ください。

日本ブース出品者：月光社、所由紀子、矢部藤子、山吉由利子、因間りか、岡田好永、UNIVERSAL POOYAN、クサボン、中村周子（順不同・敬称略）



①立派な入口看板。②中国の創作人形作家、白城の作品。ビスクボディにフォルモで装飾。③ロシア、中国、日本、ドイツ各国のイベント主催者たちが集合④月光社の「YONG GIRL」中国の庸のオマージュ。少女の持つ傘には昨年のデモへの賛意が込められている。⑤～⑥中国人作家の作品。⑦モチーフは、コヤールの仲間、アメリカ先住民族の精霊ココペリ？⑧ジャンクを用いたインスタレーション。⑨BJD はやはり中国ファッション⑩注目された日本ブース。中国では情報統制がしかれ、海外のウェブサイトや SNS を見ることができない代わりに、国内の SNS が貴重な情報源。撮影した写真をすぐに中国版 twitter に流し、情報を共有する。⑪会場全景。中央はロシア、左の黒壁部分が日本の展示ブース。



report

西村 FELIZ The Lost Civilization

遠く離れた中南米のヒトガタ文化は、日本人の縄文時代の記憶を呼び起こすのでしょうか。

中南米の放浪を経て、2002 年から人形制作を開始した西村 FELIZ さんは、マヤやアステカの遺跡の発掘物をモチーフに創作をしています。日本人である彼のフィルターを通してしているので、キャラクター的にポップにデフォルメされた動物や人物には西村作品ならではの愛らしさがあります。

しかし彼の作品の大きな特徴は、太陽の明るさと死の闇が同次元にあるのであろう中南米の生活感を、この日本で再現していることかと思えます。彼の地の日常のできごとから、カオスと強い生命力をポジティブに感じ取る感性を、『ドール・フォーラム・ジャパン』に連載されたエッセイ「生きるって大変」からも感じたものでした。それらを明るい色と形のヒトガタにしまいこむ屈託のなさ。それが西村作品の魅力なのだと思います。(H)

ストライプハウスギャラリー
8 月 22 日 ~ 31 日

※チーム・コヤールでは「ラテンアメリカ・スタディーツアー」をなんとなく検討中。西村 FELIZ さんを講師にメキシコ・キューバ方面を訪れたいと思います。実施は 2 年後くらいかと思います。参加者募集！



第 44 回ドールショウ

1998 年に始まり開催 44 回を迎えたドールショウ。「日本最大の多ジャンルドール即売会」を標榜するだけあり、出展者数は約 500 で入場者数は 2 万人を超えるとも言われます。ブースの多くはスーパードルフィー、ブライス、リカちゃん、momoko といったファッションドールの衣装、アクセサリやパーツを扱っていて、オリジナルドールは少数派です。オリジナルも量産もののように樹脂系の素材を使う傾向があるので、よくできていると既製品のように見えてしまいます。原型から衣装デザイン、縫製までオリジナルの UNIVERSAL POOYAN のドールはそのような少数派のなかで健闘しています。

ドールショウでは各ブースが思い思いにファッションショーごっこをしているような楽しさがあります。日本のドールファンから生まれた MOMOKO は、おしゃれ好きな女の子のファッションを反映する素体として定着、その成長ぶりを感じました。(H)

東京都立産業貿易センター浜松町館 9 月 6 日

※次回からは別会場で開催。公式 URL <http://www.dollshow.net/>



MOMOKO をプロデュースした LW ドールズのメンバーでもあったコリスミカさんも出品。ショールはコリスミカさんのオリジナルプリント。



UNIVERSAL POOYAN はアウドドア用品ブランド「ミステリーランチ」の商品や社長のフィギュアを 1/6 で制作、マスコットベアを展開中。

DOLL FORUM JAPAN and...

チーム・コヤールの活動のルーツとなった創作人形情報誌『DOLL FORUM JAPAN』がウェブマガジンに。動画を交えた展示レポートや論考などを掲載しています。更新は不定期。
<http://dollforum.blogspot.jp/>



DOLL FORUM JAPAN バックナンバー
閲覧・ご注文は
書肆アラビクへ
〒530-0016 大阪市北区中崎 3-2-14
tel/fax 06-7500-5519